



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2014年11月Vol.12

Bandundu Shot! - 今月のBDD-



「地球の片肺」コンゴ盆地森林の今!

満を持して、お待たせしましたバンドゥンドゥ特集! 創刊以来、待ち焦がれていた読者も多いはず! バンドゥンドゥと言えば、森。呼吸するたびに、コンゴ盆地の森林からの酸素を感じますよね!?

さて、10月上旬、「持続可能な森林経営及びREDD+のための国家森林インベントリー整備支援プロジェクト」モニタリング調査団がJICA本部より訪れ、プロジェクト実施中のバンドゥンドゥ上空に飛び立ちました。低空飛行でユラユラ揺れる飛行機に酔いつつ、果てしなく広がる緑のじゅうたんをよくよく見れば、やはり伐採や劣化が進んでいるところが(涙)。しかしその全貌はいまだ把握されていないのが現状。現地視察や州政府や環境省関係者との協議を経て、改めて森林調査とモニタリングシステム構築の重要性を認識。引き続き、コンゴの森を守ろう! と心を新たにした調査団でした。

森林専門家と辿るバンドゥンドゥの道

BDD Life! - バンドゥンドゥで生きる -

バンドゥンドゥと一口にいってもその広さは本州の1.3倍と広大だ。その地を旅することを夢見ている方のために、今回は交通事情をご紹介します!

バンドゥンドゥ北部は熱帯雨林/熱帯モンスーン気候に属し、樹高40mを超える鬱蒼とした森林に覆われたジャングル。しかし、そんな森にも「道」はある。最初は地元の人だけが使う細い道。そこに車が1台通ると後は早い。丸木や炭を運ぶトラックが道幅を広げていく。そんな道を通る度、あまり森が切られなければ、と森の将来に思いを馳せる専門家たち。この地域でもう一つ大切な「道」が川と湖。小さな丸木舟からエンジン付のスピードボート、トラックを載せた渡し舟まで、沢山の船が生活の足になっている。スピードボートは早いけど、音が無粋でちょっと残念。その点、静かに水面を滑る手漕ぎの船は、眺めるだけでも心地良い。

さて、州中部はサバンナ地帯。道の両側に草原、丘陵、河畔林が広がっている。どこまで行っても草、草、草。膝丈くらい草から大人の背を越える草原まで色々。荒涼たる景色に灌木が味わいを加えてくれる。オフロード好きにはたまらない未舗装路。車の後輪が流れるのはご愛嬌。映画やテレビで見るアフリカの風景が君を待っている!

サバンナを越えて南に向かうと、突然森が出現! ここは、標高約1000mの南部アフリカ地域特有の乾燥林(マメ科が多い)。森を歩けば次第に服に黒い線が! なんだこれは? 答えは、「炭」。ここでは数年おきに乾期に火を入れる習慣がある。木の幹は黒く焦げているけど大丈夫、木は生きている! 木の枝を頭に乗せて運ぶかわいい子どもたちの姿に、森とヒトとの共存する未来が見えるよう。

いろんな姿を見せてくれるバンドゥンドゥの自然。近い将来、いち押しドライブルートになること間違いなし!?



↑ 静かに水面を滑る丸木船



↑ サバンナ地域の火入れ跡

Eat BDD! - バンドゥンドゥで食べる -

専門家に聞く!
サラリーマンのお昼ご飯:
「サラムシ」



←トラックの荷台で昼ごはん



←BDDのシクアン(写真上)は
コンゴ民No.1!

バンドゥンドゥの森で働く人たち、森の中で食事はどうするの? というわけで、森林プロジェクトの専門家たちのお昼ご飯事情を突撃!

プロジェクトの主要な活動のひとつに、森林を種類別に区分した「森林基盤図」という地図の作成があります。解析には衛星画像を使いますが、解析が困難な地点については地上調査が必須。四駆に調査器具を詰め込み、調査候補地点を目指して、道なき道を進む。道中、何度もスタックする車を引き揚げ、粉塵を巻き上げながら、いくつもの村をひたすら通過。激しく揺られる車中、村人の目に、自分たちはどのように映るだろう? 畑をこしらえ、さまざまな恵みを採集する森は、彼らにとって生活そのもの。「よそモノ」が突然やってきて、知った顔をしているいろいろ眺めたあげく、そそくさと去っていく。森を「資源」などと呼び、我々のことを理解しようともせず、迷惑千万のうえない、などと思われてやしないかと気を揉みつつ、できるだけ誠実にお願いしようと思いをひきしめます。

さて、調査ポイント近くの村にたどり着き、目的を説明し、調査許可が降りるとひと安心。「ぐう」...ほっとしたらお腹が空いた。そのくらいが丁度昼食とき。スタッフみんなで食べます。イワシ缶、コンビーフ缶、魚の葉包み蒸し、パン、バナナ、シクアン(キャッサバを発酵させた保存食)あたりが定番のメニュー。食後はしばし団らん。いまは地元の人にとって、何者? っていうかんじかもしれませんが、森林基盤図を完成させ、よりよい森林管理で、彼らの生活の役に立てるといいな★と思いながら、今日も森に入っていきます。

「退職することになりました。」と環境省カウンターパートのムサンバ氏。ええっ！確かにいい歳だとは知っていたけど…。「正確には公布された退職者リストに載っています。」違いが判りませんか？「リストには載りましたが働き続けます。」…もはや喜ぶべきか悲しむべきかわかりません。

コンゴ民では、優秀な公務員の大半は既に退職年齢を迎えている中、過去約20年に亘る政情不安の影響により、それに続く年代が育っていないという厳しい現実があります。もちろん環境省も然り。優秀かつ技術的な知識・能力を有する同僚は軒並み6X歳。ちなみに日本人のプロジェクト・リーダーも6X歳！その圧倒的な60代パワーに3X歳の事務所担当はたじろです。年齢のおかけかどうかはさておき、着実に成果を挙げる森林プロジェクトに、環境省は絶大な信頼を寄せようになっています。同様の支援を展開しているドナーなど見向きもせず、森林プロジェクトとともに汗をかきます。「なんだかんだ言ってみんな現場が好きなんですよ。」とはかのリーダー談。こうした日本人専門家と優秀な環境省職員のおかけで、地球は救われるのです(言い過ぎ…じゃない！)。

「JICA/JAFTAプロジェクトは、我々の「学校」です。専門家の皆さんから学ぶのが毎日楽しくて仕方がありません。」とは専門家に散々しごかれた(!)技術者の言葉。確かにコンゴ民は色々な意味でとんでもない国ですが、優秀かつ誠実な人材が揃っています。日本の協力の芯は人材育成。どんな協力も人あってこそ。日本でおいしい空気を吸う瞬間、コンゴの森で黒い石をお守りに、日本人専門家とともに木の数を数えるコンゴ人がいることに思いを馳せて頂ければ、こんなに嬉しいことはありません。(終わり)



(↑)インベントリー調査、出陣準備!



(↑)住民に調査の趣旨を説明

コンゴ民を飛び回る男☆石嶋忠行専門家!

コン月のイベント



バコンゴ州保健人材開発計画



西カサイ州保健大臣(右端)、アトリエに現る

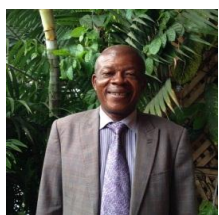
2014年1月に開始された技術協力プロジェクト「保健人材開発支援プロジェクトフェーズ2」では本格的に地方展開を始めました。そこで、パイロット州となっているのがバ・コンゴ州(西部)、西カサイ州(ど真ん中)、カタンガ州(南東部)。コンゴ民を横断して活動展開!そして、コンゴ民の東西を股に掛けて活躍するのが、石嶋忠行専門家。州保健人材開発計画の策定支援を主に担当されています。

さて、プロジェクトの進捗は?バ・コンゴ州の州保健人材開発計画はなんと既に製本済み。10月には2週間西カサイ州カナンガ市に滞在し、西カサイ州の州保健人材開発策定のアトリエに参加。カナンガへのアクセスは州に1便しかないUNHAS機。一度行ってしまえば簡単には戻ってこられず、JICAとしては初の長期滞在。覚悟を決めて出発!

到着から1週間、水が出ない、電気がないのは当たり前。夕食にチキンをおターしたら鶏を絞めることからスタート(新鮮なもの★)。生活面では少しづつ思いをしつつも、仕事は至って順調。2週間の滞りでカナンガ州の州保健人材開発計画が完成!これから約2年かけて、州のニーズに沿って保健人材の課題を実際に解決していきます。

こうして、3つの州の計画が次々に完成。ホッと一息!、つけるはずがないのが、コンゴ民での業務の醍醐味!?ずっと進捗がなかった現在の11州の体制から26州の保健区への体制改革について、突然の大臣令発令。カタンガ州は4つの保健区、西カサイ州は2つの保健区に分割されることに。しかし、大臣令は出たものの、現場ではどのように新しい体制に移行して行くのか、情報が大幅に不足。石嶋専門家、さっそく情報を入手するため、新しく任命された保健区長と人材課長と協議するために、バ・コンゴ州に突撃!今日も元気にコンゴ民を飛び回ります。

愛すべき?コンゴ人



所属: 環境省
氏名: アンドレ・コンジョ

「環境省のいかりや長介」の異名を持つ(!?), 森林インベントリー・整備局のインベントリー課長、アンドレ・コンジョ氏。おだやかな人柄のなかに情熱としっかりとしたビジョンを持つ、森林専門家の頼れるカウンターパート。愛をもって育て育てる彼の優れたリーダーシップと日本人専門家の技術支援により森林調査チームは大きく成長を遂げ、悪路や厳しい自然環境に負けず、コンゴ民の持続的な森林資源管理に向け日々奮闘しています。

編集後記

<☆今月のリンガラ語☆>「エザリ コンボラ テ」
ホテルで、職場で、家具付マンションで、あらゆる場所で使うことが(涙)。

前号の答えは、「エザテ」=「無いです」。レストランでメニューのとおり注文したら、「エザテ」と連発されるのは日常茶飯事。まずは、「何かある?」と店員さんに尋ねるところから始めましょう。メニューに書かれていないものを列挙されることも(何のためのメニュー?)

空気よし、魚よし、自然あり。静かなバカンスを過ごすにはもってこいのバンドゥンドゥ。コンゴ河のほとりには、某省関係者がホテルを目下建設中!あっという間に一年。次号は、新年特別号!来年も愛すべきコンゴ民の姿をお届けします★